

## 「たすのかな ひくのかな」

## 1 提案の主張点

## (1) 演算決定力や思考力をより高める単元構成の工夫

たし算とひき算を混ぜて取り上げ、どんな計算になるかを考える、また、他の数量に置きかえて考える本単元は、演算決定力を高め、思考力を育成する上で有意義であるといえる。

しかし、児童の実態をみると、計算は得意であるが、自分で問題を作ったり、文章題を解いたりすることには、約半数の児童に抵抗があった。

そこで、2時間のところを4時間にし、第3時を問題作り、第4時を友達の作った問題を解く時間とした。

本単元を終えた後には、文章題の正答率が8割を越え、文章問題が好きという児童も9割以上に伸びた。

## (2) 興味・関心に応じた題材選択を中心とする少人数指導

児童が主体的判断で演算決定ができ、興味・関心をもって楽しく学習ができるように、問題作りの場面を自作で2つ用意し(お正月と節分の場面)、そのどちらで問題作りをしたいか選択させ、少人数に分けた。

## (3) 人とかかわる力を育てるグループ活動の工夫

友達とのかかわりを大切にしたいと考え、3人1グループで「考えを練り合う・友達の考えを聞く・教えてあげる」ことを中心に活動を進めた。3人としたのは、2人組で2人とも分からないといきづまり、4人組であると、1年生の段階では、かかわる力が育ちにくくなると考えたからである。そして、3人のうちの1人をリーダーとした。

授業では、日ごろあまり意欲的でない児童が「解けたー!」と生き生きと取り組んでいた。グループで話し合ったり、解き合ったりする喜びが、一人で解く意欲にもつながっていた。

(4) 学習意欲を高める学習課題の設定や提示の工夫  
学習への意欲を高めるために、

博士からの手紙を導入で用いる

正解すると宝のありかが分かるゲームを取り入れる

2問目からは自分のペースで解く時間を設ける

テレビ会議システムで他方のコースと交流する

ことを取り入れた。

## 2 提案に対する意見

意見1: 児童の実態をとらえて、コース分けや学び合いがなされている。演算決定の際に、キーワードだけに頼らず、図にも書いたのはよかった。

意見2: 文章題ができることと分かることは違う。問題の中に、何算でもないものを入れるなど、悩む場面を入れるとよいのでは。また、ひき算にもいろいろな場面があるので、その典型となるものを取り上げ、操作を通してイメージをもたせていきたい。

質問1: 人とかかわる力を育てるために、本時の授業で大切にすることは何か。

・できなかったことが友達とのグループ活動でできた、という喜びを味わわせたいと考えた。それが自信につながり、楽しい、やればできる、自分で取り組むという、学ぶ意欲や学び方を身につけさせることにつながる考えた。

質問2: グループの分け方とリーダーの決め方は。

・節分の場面の方が躍動感のある絵になったので、絵を見せるとそちらに集中してしまうと考え、口頭で情景を話して児童に決めさせた。

・リーダーは担任が意図的に決め、少人数担当と相談して最終決定した。

## 3 御指導

・ストーリー性を持たせ、意識が連続する単元構成になっていた。

・少人数授業ではあるが、TV会議システムを使って、2コース間の共有化を図っていた。算数の本質にせまるまとめにするには、いつ分かれて、いつコース間交流をするか、見極めが必要だ。

・意欲という言葉教師レベルにすると、知的的好奇心 達成動機・見通し 有能感といえる。この3つが、今日の授業では、第3者からの手紙やゲーム、TV会議システムの利用 3人グループ 自作問題、自力解決の時間確保を通して高められた。

・少人数の課題として、ア: 指導者とグループの数がいつも同じ イ: 少人数に分けた後、一斉指導をしていないか ウ: グループで個が埋もれず、一人一人の状況が見ることができているか エ: 分かれ方がABCでなくCCCでもいいのではないかと オ: 自己評価はなぜ3段階なのか。10段階がよいのではないかと、あげられる。